

## 第 25 回 戦没者追悼・平和祈念式典 式辞

多くの尊い犠牲を重ねた末に迎えた終戦から 73 年、今年も平和を祈る暑い夏がきました。

本日ここに、ご来賓各位、ご遺族の方々のご臨席と、町民の皆さまのご参列のもと、第 25 回高森町戦没者追悼・平和祈念式典を挙げるにあたり、町を代表して式辞を述べます。

多くの方々が、祖国の安泰を願い、家族を案じつつも激しく、厳しい戦場に散り、愛する家族を思いながらも再び郷土の地を踏むことなく、遠く異国の地で亡くなられました。

今ここに、日本の平和と繁栄のための礎となりました戦没者ならびに犠牲者のご霊位に対し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げ、謹んで哀悼の誠を捧げます。

私たちが今、当たり前のように享受している平和と繁栄、そして、山や水、緑につつまれた自然豊かな郷土高森町の、この美しい姿が、戦争によって心ならずも命を落とされた方々の犠牲の上に築かれていることを、ひとときも忘れてはなりません。

こうした方々の尊い犠牲を次の世代にしっかりと伝え、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和の実現に努めていくことこそが、戦没者の方々に報いる途（みち）であると確信しています。

高森町では、今年も 8 月 5 日から広島市に平和のかけはし使節団を派遣し、多くの町民の皆さまから託された「折鶴」と共に、平和の願いを広島の地にお届けしました。広島平和祈念式典への参加、語り部の方から貴重なお話をお聞きする経験の中から、命の尊さや平和の大切さを胸に刻んで帰町されました。

一方、戦後 73 年が経過し、戦争体験を語り継ぐ世代も高齢化してきているなど、今後には様々な課題もあります。

しかし 8 月の平和月間を通じ、このように平和事業を継続することで、町民一人ひとりが平和について関心を持ち、命の尊さを知り、家庭、学校、職場、そして地域でお互いを尊重し合うことを実践していただくことが、平和への近道と考えており、町民の皆さまにもお願いするものでございます。

世界では、北朝鮮問題など様々な不安もありますが、今後も戦争のない平和な世界の実現のために、地道ではあっても一歩ずつ努力を続けるとともに、高森町の豊かな

可能性を切り拓き、町民の皆さまが安心して暮らせるまちづくりの実現に向け、全力を尽くしていくことを、今ここにお誓い申し上げます。

終わりに、戦没者ご遺族の皆さまの、今なお変わる事のない深い苦しみ、悲しみに思いを致すとともに、皆さまの末永いご平安を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。

平成 30 年 8 月 15 日 高森町長 壬生 照玄